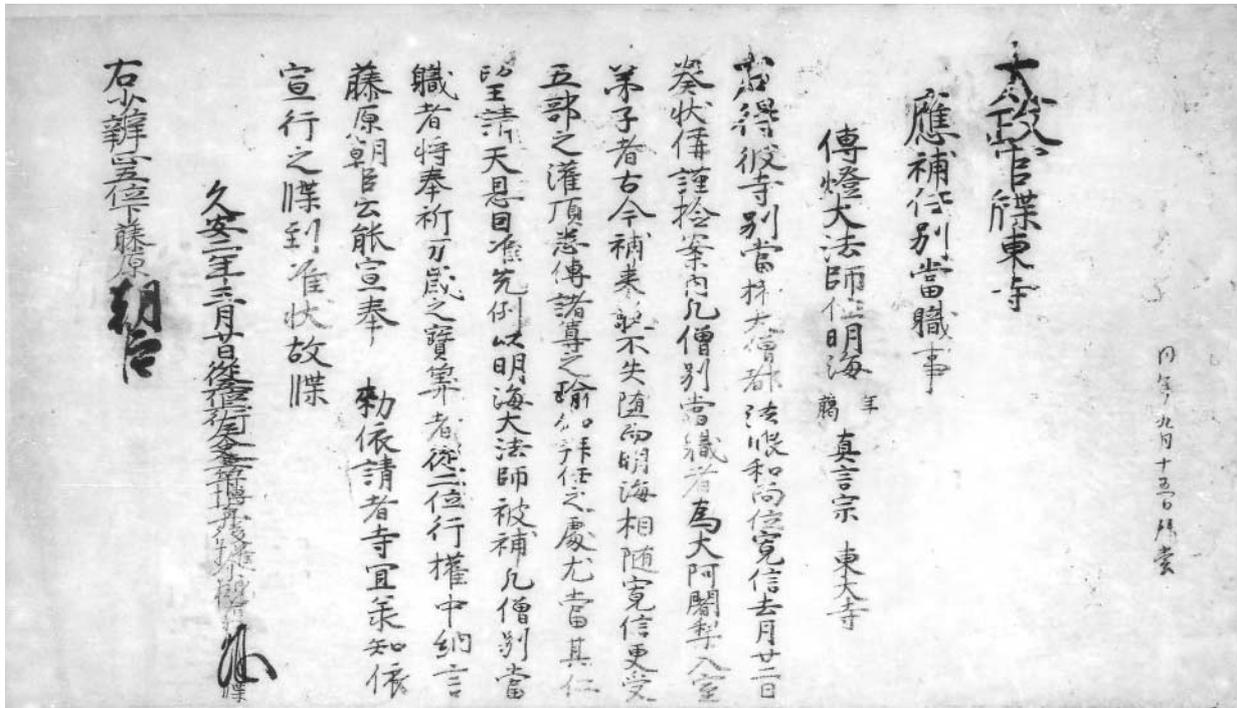




総合資料館だより

2007.10.1 No.153



太政官牒

太政官、東寺凡僧別当を任命

久安(1146)年3月、東寺の僧明海を凡僧別当に任命した太政官の牒です。

律令制のもと、東寺長者や凡僧別当の諸職はもちろん、定額僧と呼ばれる定数の定められた東寺の僧侶となるためにも、国家による任命が必要でした。

天長元(824)年、空海が造東寺所別当に任じられたのを始めとして、東寺に別当が置かれました。別当には僧綱別当と凡僧別当があり、僧綱別当は僧正・僧都・律師など、僧綱(仏教界を総括する中央の僧官)の所職を兼帯し、東寺では長者と呼ばれました。東寺長者は醍醐寺・勤修寺・仁和寺など真言宗の門跡寺院から選ばれ、後七日御修法など東寺が主宰する行事を勤めましたが、東寺に常住することはありませんでした。

凡僧別当は、僧綱の地位を持たない大法師以下の僧で、東寺に常住し、毎日の宗教活動を勤める寺僧の中から選ばれました。長者と凡僧別当は、別個に任命されてきましたが、長者が勤修寺寛信のとき、寛信は前長者定海の門弟である凡僧別当覚雅を退け、自らの門弟明海を凡僧別当に推薦し、国家の承認を得ます。以後、凡僧別当は長者が進退を左右し、東寺一寺に関する長者の代官的存在となりました。

なお、三行目に東大寺とあるのは東寺のことです。

目 太政官、東寺凡僧別当を任命..... 1	第22回東寺百合文書展 2
文献課の窓から「100年前のビジネス支援サービス」... 4	歴史資料課の窓から「星変祈祷」..... 6
次 最近の収集資料から..... 7	府民講座のお知らせ、友の会事務局から 他... 8

国宝指定10周年記念

第22回
国 宝

東 寺 百 合 文 書 展

—日本史のなかの百合文書—

会 期 平成19年9月29日(土)~10月28日(日)(10月8日(祝)、10日(水)は休館)

午前9時~午後4時30分

会 場 京都府立総合資料館 2階展示室(入場無料)

列品解説 10月6日(土)、20日(土) 午後2時~ (事前申込不要)

記念講演(府民講座)

10月11日(木) 午後2時~

金田章裕氏(京都大学大学院教授)

演題「桂川の流路と東寺百合文書の絵図」

10月18日(木) 午後2時~

池田好信(当館職員)

演題「東寺百合文書の歴史」

受講ご希望の方は、受講希望日、氏名、電話番号を明記し、はがき、FAX又はメールでお申し込みください。(先着順) *満席で受講をお断りする場合のみ連絡します。

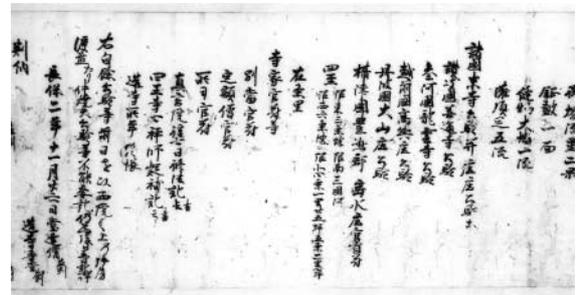
TEL 075 - 723 - 4831 FAX 075 - 791 - 9466 E-mail : shiryokan-shomu@pref.kyoto.lg.jp

当館では、府民の皆様に館蔵の東寺百合文書について、関心と理解を深めていただくために、昭和59年から同展覧会を開催しています。今回は国宝指定10周年記念としまして、「日本史のなかの百合文書」という広いテーマを設けて54点の文書を展示します。

東寺百合文書は、我が国の古文書を代表する約2万点の大文書群で、日本の歴史、とくに日本中世史を考える上で、欠くことのできない史料として活用されています。

今回はその中から、教科書や一般図書に記載され、日本史の常識となっているような事件・事柄がわかるような文書を選び、東寺の内外(寺宝・仏舍利・法会や寺内外の人々に関する特徴ある文書)、東寺と朝廷(天皇や公家の発給にかかわる文書)、東寺と武家(鎌倉・室町・戦国の各時代の著名な武士の文書)、東寺と荘園(百姓申状や荘園絵図など)の4つの構成で、日本史の面白さを知って貰おうと思います。

以下、展示品の幾つかを紹介します。



東寺宝蔵焼亡日記案(部分)

長保2(1000)年11月25日の火災によって被災した東寺宝蔵の寺宝目録です。この日記案によると11月25日夜、東寺の北郷からの火事により南北両宝蔵が類焼しました。南宝蔵に納められていた灌頂会かんじょうえの道具類は取り出されて焼失を免れましたが、北宝蔵の仏具類のほか文書類が焼失しました。

焼失した文書は讃岐国善通寺ぜんつうじ(現香川県善通寺市)などの「諸国末寺公驗并庄庄公驗等」、別当べっとう・定額僧じょうがくそうの「寺家官符等」の重書じゅうしよでした。平安時代、東寺にとって重要な道具類や文書・記録類は宝蔵に保管されていたことがわかります。



寺内落書

永正14(1517)年正月14日、東寺の僧良元の悪事を告発した落書です。

仮名交じりの稚拙な文字で、良元の窃盗行為を糾弾しています。「もし寺僧がこの落書を無視し、彼を処分しないのなら、幕府に直訴する」と訴えています。これを受けて東寺では良元の処分に踏み切ります。

寺内落書は、単なるいたずら・悪口などではなく、中世東寺に、犯罪・不義に対する内部告発と、それに応じた審理や処罰の方法があったことを伝えています。



後醍醐天皇諭旨

鎌倉幕府が崩壊した4カ月後の、元弘3(1333)年9月1日、後醍醐天皇が丹波国大山荘(現兵庫県篠山市)・備中国新見荘(現岡山県新見市)・若狭国太良荘(福井県小浜市)の各地頭職を東寺に寄進した諭旨です。

この寄進によって東寺では、新たに不動堂に二十五口の護摩供僧を置いて、十二時の不断護摩を修するなど活動を拡大しました。

しかし、室町幕府は、建武3(1336)年に大山荘と新見荘の地頭職を停止しました。残ったのは、太良荘のみになり、東寺では減少した供料では十二時不断護摩を維持出来なくなり、これを改め、不動供を毎日一座勤行することにしま

した。

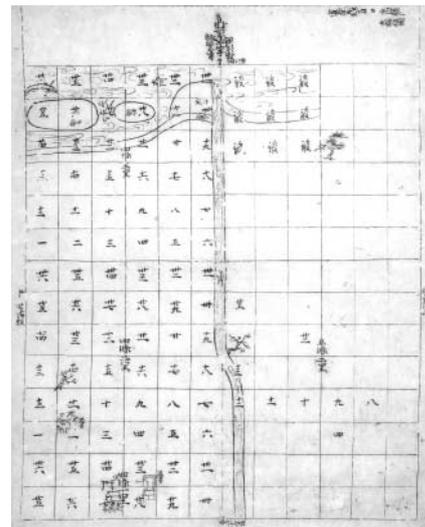


織田信長禁制

永禄11(1568)年9月日、織田信長が東寺に下した禁制です。

この時信長は、足利義昭を奉じて入京し、東寺を本陣にします。東寺では軍勢の乱暴を恐れてこの文書の下付を請うたものです。

官職名の「弾正忠」はそれまでの「尾張守」に替えて、この8月から名乗ったものです。朱印は単郭の楕円形で、印文は武力による天下統一を標榜した「天下布武」です。



摂津国垂水荘差図

寛正4(1463)年10月、摂津国垂水荘(現大阪府吹田市・豊中市)の浜見(検注)を円滑に実施するために東寺によって作成された差図です。

南を上にして描き、中央縦に走る川は「高川」(吹田市と豊中市の市境)、上部には三国川(現神崎川)が見えます。方眼状の条里坪名(数字)と「次取」と記させているところが荘域にあたります。

この検注では隠田の摘発と畠地と田地の地目確認が徹底して行われました。

100年前のビジネス支援サービス

—京都府立図書館図案閲覧室開設のひとこま—

総合資料館には、昭和38年の開館時に、京都府立図書館から引き継いだ美術工芸資料のコレクションを所蔵しています。今回は、このコレクション構築の元となった、明治期の京都府立図書館における図案閲覧室（以後図案室）開設のひとこまをご紹介します。

京都府立図書館は、明治31年に京都御苑内の京都博覧協会の建物に間借りする形で開設され、その後、明治38年に大森知事が日露戦争戦勝記念の図書館建設を提案し、明治42年4月に京都府立京都図書館が岡崎の地に開館しました。当時の館長は湯浅吉郎（1858～1943、号は半月）で、京都帝国大学の講師時代に米国の図書館学校で学んだ後、明治37年に大森知事の要請により府立図書館長に就任し、大正5年に退職するまでの間、図書館運営における数々の先駆的な業績を残しました。

設計者は、当時、京都高等工芸学校（京都工芸繊維大学の前身）教授であった武田五一（1872～1938）です。武田は、明治34年に図案研究のためヨーロッパに留学し、同36年に帰国。同年、京都高等工芸学校の図案科へ招聘され、その礎を築きました。その後、京都帝国大学建築科の初代教授を務め、京都大学のシンボルである時計台（現在は改修されて京都大学百周年時計台記念館）等、京都の代表的な近代建築物を設計した建築家として知られています。

さて武田は、『京都図案 第2巻第4号』（明治40年8月）に「図案について」という文章を寄稿し、次のように記しています。

「我が国未だ図案に関する一般教育行はるゝに至らず従ひて図書館などにも適當の参考図を見出だすこと能はず、参考図を見ること少きが故に想像も充分に活動の余地なく千篇一律絶えて新案を見ること能はず…（中略）…図案家を以て自ら任ずるものは弘く参考の図書を読み詩的趣味を養成し数学、理化学動植物学等の応用

に努め併せて詩的趣味と想像力との養成を懈らざるを要す。」

ここでは、図書館に参考になる図書がないことが、図案家の想像力の養成を妨げ、新案（模倣ではなく独創的な図案の意）の考案ができない要因になっていることを嘆き、図案家達に幅広い読書を奨励しています。



この『京都図案』という雑誌は、京都図案会という図案家の団体の機関誌で、各種の伝統工芸家や染織業者等の実業家も賛助会員として名を連ねていました。その一人である帯地商の三宅清治郎は、この武田の文章に共鳴し、ある行動をとります。これについては『京都府立京都図書館沿革誌』（以後『沿革誌』）に、次のように記されています。

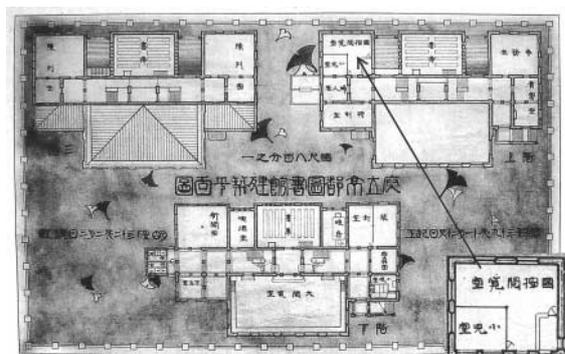
「都織の製織家六角通高倉西入る三宅清^{ママ}二郎は、かねて図案の改良攻究に尽力し、図案の募集展覽をしたこともあったが、もし図書館の一部に図案に関する各種の図書を集め、業者に観覧させることができるならば染織業界に裨益し、延いては京都の美術工芸に大いなる刺激を与え、その進歩を期することになるだろうと考えていた。四十年十月、三宅は一日館長湯浅を訪れてその意見を述べたところ、湯浅もかねて同様の計画を抱^注いていたので、両者の考えは偶然にも一致を見るに至った。よって三宅は直ちに金貳百円の寄附を約し、翌日現金を送ってきたので

大いに力を得、なお有志の賛成を得て資金を集めて計画を実現することとした。図書購入基金の制度を作ったのはそのため、取り敢えず図案室を設けてその要求に応ずることとした。」

つまり図書館に寄附をして、それを元に、染織業者の参考になるような図書を購入してもらうことにより、業界に裨益したいという発案で、この申し出には業界のみならず京都の美術工芸の発展にも寄与したいという強い思いが込められていました。そしてこの申し出に応えるために、早速、年末の府会で「図書館図書購入基本^注金」の設置が議決されました。

さて、図案室は、新築された京都府立京都図書館の2階南端に設けられました。この図案室には「図面の展覧に便利のように特別の大テーブルが置かれていた。」(『沿革誌』)とあり、開設にあたっては館長の湯浅や設計者の武田の理念だけではなく、三宅の寄附の申し出が大きく貢献したのです。

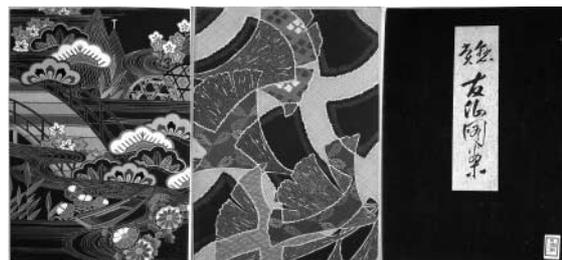
この図案室で収集された資料については、当時の蔵書目録『京都図書館和漢図書分類目録美術工芸之部』(昭和5年10月末現在)で、その概要を知ることができます。



「図按閲覧室」(『京都府立京都図書館一覧』「府立京都図書館建築平面図」より加工)

図案室の資料の中には、三宅の発案に賛同した同業者が寄附した資料もあります。例えば、『懸賞 友仙図案』等の書名で、呉服商の岡本仙助商店が寄贈した資料群があります。これは同店が募集した図案を画帖に仕立てたものです。書名に「懸賞」とあるとおり、当時は、懸賞金を懸けて優秀な図案を募集することが盛んに行われていました。近年、『色世界』という、同

店が発行していた図案雑誌を御寄贈いただき、偶然にもその第3年第2号(明治42年4月)に「図書館へ図案の寄贈」という記述を見つけ、当事者の思いを知ることができました。ここには、同店が数年来募集してきた懸賞図案を画帖に仕立て、新築された府立図書館に寄贈すれば、図案家の参考になるだけでなく、衣裳界へも寄与するだろうという趣旨の文章が記されています。



近年になって、仕事に役立つ情報を提供するビジネス支援というサービスが、公共図書館を中心に広まりつつあるように見受けられますが、100年前の府立図書館を舞台に、図書館側からの一方通行ではなく、利用者でもある実業家達の熱意に支えられたビジネス支援が展開されていたことに驚くとともに、京都の伝統産業を育てた背景には、このような文化的土壌があったことを改めて実感しました。図案室伝来の美術工芸資料だけではなく、当館の蔵書の多くは、利用者や地域の皆さま方の支援を受けて構築されてきたものであるということに感謝するとともに、今後とも、当館の資料収集に暖かい御支援と御協力をお願いいたします。

(文献課 松田万智子)

注 湯浅は、館長就任後の『京都日出新聞』(明治37年5月30日付)の談話で、「近頃は多きは百人からの閲覧人で多忙です、学生ばかりではありません、図案家とか織物染物業者の参考を求めに来る事が多いです、斯くの如きものには及ぶ限り其参考になる書物を此方から教へます」と述べており、早くからこのような考えをもっていたことがわかります。

注 『京都府通常府・市部・郡部会決議録 明治40年』によれば、基本金は寄附金100円を元に創設されています。(『沿革誌』の200円の記述との齟齬は不明です。)また、この基本金は、大正11年度で廃止されますが、その理由は不明です。

星 変 祈 禱

応永9(1402)年、彗星が京都の西空に現れたことが、吉田兼敦という人の日記に記されています。兼敦は、南北朝・室町時代前期の神道家で吉田社の祠官。朝廷にあっては侍従、神祇大副を勤め、治部卿に昇ります。吉田兼好の子孫でもあります。

その正月19日条に、「おとといから彗星が見えている」とあります。2、3日して神官仲間の安倍範信(安倍晴明の子孫)が訪れて、「殿(関白一条経嗣)から彗星のことを報告せよ、といわれたけれど、見えなくなってから報告するのが常なのでしなかった」といいます。彗星は光が弱まったり、強まったりして見え続けます。2月2日に範信朝臣がまたやってきて、「この二・三日は光芒六尺(2メートル弱)」といいます。2月5日にようやく見えなくなったらしく、範信が朝廷に上申した勅文を写しています。

「去月十九日彗星出西方、在奎度(アンドロメダ座の方向)、光芒三尺、所色白」と報告し、旧記を注進します。

「天文録云、彗星は天地の旗、内に大乱あらず、外に大兵あり」

「荊州占曰、彗星昏に見るは、其国兵を受く」
「又云、反あらば兵大に起こる、又云、天下大水」

「洛書云、凡彗掌見るは、死人乱麻の如し、哭声野に遍し、臣君を犯し、子父を殺す」

範信の主家筋にあたる刑部卿土御門有世が幕府に注進した勅文も、ほぼ同文ですが写しています。

「洛書云、(略)妻夫を害し、小大を凌ぐ、百姓安ぜず、干戈並興し、四夷来侵す」

どうも不吉な内容ばかりのようです。

彗星は11日に再び現れ、「彗星猶出現、此間連夜事也、光芒猶以外」とあり、16日まで見え続けます。

こうした注進を受けて、北山殿足利義満は2月13日に大属星供を修し、次いで東寺に祈禱を命じます。写真1は、この命令を伝えたもので、伝奏広橋兼宣が東寺長者金剛乗院俊尊を通じて、

東寺に伝えていきます。今回は、祈禱の方法や期間については、東寺に一任されました。

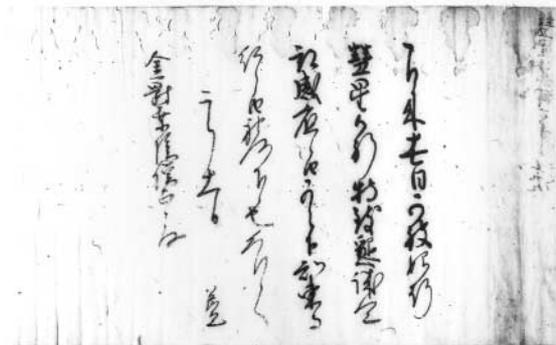


写真1

自来十七日可被始行彗星御祈、特致懇誠、宜期感応之由、可令下知東寺給之由、被仰下候也、恐々謹言、

二月十一日 兼宣

金剛乗院僧正御房

この命令を受けて、東寺では全員による仁王経読経を毎日一百部と、仁王護摩・五大尊護摩を講堂で7日間行うこととします。護摩は増長院法印行室以下の供僧に役割を当て、勤行を促した廻文を回します。それが写真2の文書です。



写真2

指名された供僧は、承諾すればその印に名前の下に「奉(うけたまわる)」の文字を書き入れ、勤行の返事とするのです。回文が戻ってくると、東寺では祈禱の実施細目を広橋兼宣に注進し、承認を得ます。兼宣がこれを認めれば、兼宣は祈禱に必要な物品や経費を用意し、東寺に支給します。このようにして結願の日(このたびは25日)まで、祈禱が実施されるのです。

彗星は17日から見えなくなりました。

❖❖❖❖❖ 最近の収集資料から(平成19年6月～8月) ❖❖❖❖❖

図書資料

京都

松尾大社 松尾大社編 学生社 2007 214p
寄贈

平安京の住まい 西山良平・藤田勝也編著
京都大学学術出版会 2007 4,376p

八瀬童子 歴史と文化 宇野日出生著 思文
閣出版 2007 8,195,18p

丹後地域史へのいざない 上田純一編 思文
閣出版 2007 14,166p

京都宇治川探訪 絵図でよみとく文化と景観
鈴木康久・西野由紀編 人文書院 2007 142p

「講堂映画会」の子どもたち 吉田ちづゑ著
桂書房 2007 9,305p 寄贈

京都の町家と町なみ 何方を見申様に作る事、
堅仕間敷事 丸山俊明著 昭和堂 2007
16,422p 寄贈

京石工芸石大工の手仕事 西村石灯呂店作品
集 1995-2006 西村金造・西村大造・西村光弘
著 現代書林 2007 95p 寄贈

人文

デジタル情報資源の検索 増訂版 高鍬裕樹
著 京都大学図書館情報学研究会 日本図書
館協会(発売) 2007 8,97p

著作権関係法令集 平成19年版 著作権法令
研究会編 著作権情報センター 2007 428,181p

徹通義介禅師研究 大乘寺開山徹通義介禅師
七百回遠忌記念 東隆眞編著 大乘寺 大法
輪閣(発売) 2006 471p 寄贈

兵範記人名索引 兵範記論読会編 思文閣出
版 2007 4,478p 寄贈

日本政治史 写真記録 復刻 金森徳治郎・
山浦貫一編 日本図書センター 2007 318p

慈覚大師円仁とその名宝 NHKプロモーション
編刊 2007 222p 寄贈

神仏習合 かみとほとけが織りなす信仰と美
特別展 奈良国立博物館編刊 2007 333p
寄贈

官庁

京都府観光入込客調査報告書 平成17年(2005
年)京都府商工部観光・コンベンション室編刊
2006 15p

京(みやこ)・食育推進プラン 京都市保健
福祉局保健衛生推進室健康増進課編刊 2007
55p 寄贈

八幡市統計書 平成18年版 八幡市総務部総
務情報課編刊 2007 136p 寄贈

丹後織物産地生産基盤実態調査報告書 和装
小幅・後染織物業界(親機) 京都府織物・機
械金属振興センター編刊 2007 41p

低年齢少年の生活と意識に関する調査報告書
内閣府政策統括官(共生社会政策担当)編
2007 523p 寄贈

科学技術白書 平成19年版 文部科学省編
日経印刷 全国官報販売協同組合(発売)
2007 9,378p

農林業センサス 2005年第1巻26、第2～5巻、
第7～8巻 農林水産省大臣官房統計部編刊
2007 9冊 寄贈

総合資料館府民講座のお知らせ

10月11日(木) 午後2時～
金田章裕氏(京都大学大学院教授)
演題「桂川の流路と東寺百合文書の絵図」

東寺百合文書展記念講演
10月18日(木) 午後2時～
池田好信(当館職員)
演題「東寺百合文書の歴史」
東寺百合文書展記念講演

11月11日(日) 午後2時～
田島達也氏(京都市立芸術大学講師)
演題「近世絵画の華 - 18世紀の京都画壇 - 」

受講ご希望の方は、受講希望日、氏名、電話番号を明記し、はがき、FAX 又はメールでお申し込みください。

*満席で受講をお断りする場合があります。

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4
京都府立総合資料館 庶務課
TEL 075-723-4831 FAX 075-791-9466
メール shiryokan-shomu@pref.kyoto.lg.jp

友の会事務局から

今年も秋にバスによる見学会を予定しています。当館恒例の東寺百合文書展の列品解説もあります。皆様のご参加をお待ちしています。

見学会

11月1日(木)、11月2日(金)の両日、滋賀県湖南市の善水寺、近江八幡市の市立資料館などを見学します。

第22回東寺百合文書展の列品解説

10月4日(木) 午後2時～

随時入会の申込みを受け付けています。

問合せ先：友の会事務局

(当館庶務課内 TEL 075-723-4831)

古文書相談のご案内

古文書の内容や解読についての相談

郵送による事前申込。申込方法の詳細については、次へお問い合わせください。

問合せ先：当館歴史資料課 TEL 075-723-4834

日誌(平成19年6月～8月)

- 6.26(火) 府民講座(第43回)
- 6.26(火) 第188回古文書相談
- 6.30(土) 科研全体研究会
- 7.14(土)～8.26(日) 収蔵品展
- 8.26(日) 科研費シンポジウム「未来への遺産・重要文化財「京都府行政文書」の保存と活用」

利用案内

休館日 祝日法に規定する休日、
毎月第2水曜日、資料整理期、
年末年始(12月28日～1月4日)

【10月～12月の休館日】

10月8日(祝)、10月10日(水)、11月3日(祝)、
11月7日(水)、11月23日(祝)、12月12日(水)、
12月24日(月)、12月28日(金)～1月4日(金)

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④(北8)北山駅前下車
京都バス④⑤⑥前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

*総合資料館メールマガジンにご登録ください

発行 京都府立総合資料館
京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991)

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1の4
TEL(075)723-4831 FAX(075)791-9466

本誌に関するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています